

協調運動に課題のある児童に対する指導・支援に関する実践的研究

－通級指導教室のグループ活動のコンサルテーションを通して－

A Practical Study on Instruction and Support for Children with the Problems of
Cooperative Exercise

－ Through Consultation of the Group Activity in the Class for Special Support Education －

川島 民子

Tamiko KAWASHIMA
滋賀大学大学院教育学研究科

奥田 援史

Enji OKUDA
滋賀大学大学院教育学研究科

<キーワード> 協調運動 通級指導教室 グループ活動

I 問題と目的

発達障害や知的障害のある子どもたちは、運動発達上の明白な発達の遅れがみられないにもかかわらず、粗大運動にぎこちなさがあったり、手指の巧緻性や協調動作に問題を抱えていたりする。こうした子どもたちに対し、多くの教員は彼らの運動や姿勢についての課題に気づき、配慮や指導を行ってはいるが、できない動きを繰り返すことで指導としていることが多い(香野 2016)。

通級指導教室の担当教員も、通級指導教室に通う児童に発達性協調運動障害の傾向のある児童が多いのではないかと感じており、そのような児童に対して、適切な学習活動に取り組みたいと考えている。しかし、通級指導教室で、子どもの運動や姿勢についての課題に気付いているが、どのような学習内容をどのように指導すれば良いのかという課題は残されたままである。

このような課題に対して、いくつかの実践は紹介されている。

例えば、知的障害特別支援学校では、どのような学習をすればよいのか、学習した内容をどのように様々な学習にいかしていったらよいのかを解決するために、指導資料を作成、活用することによって、知的障害の児童生徒の身体の動きに対する指導の必要性を感じつつ、どのような学習をすればよいのかを模索している教員に有効であることが指摘されている(川村 2016)。

また、特別支援学級において、トランポリン、風船、スカーフ、フライングディスク等の教材を工夫して活用することで、重力に逆らう動きや、姿勢を維持してバランス機能を育てる、動くもの追視する、投げる、ひねる、ねじるといった発達を意識した取組がみられる(加藤 2016)。さらに、通常の学級の2年生で、座る力、見る力、聞く力を同時に高めることによって集中して学習に取り組める力を伸ばすことを目的として、三か月間の10分間エクササイズ、一か月ごとの振り返りと目標設定を繰り返す実践が紹介されている。その結果、座る力、

見る力、聞く力がついてきただけでなく、学習場面での効果が見られたと報告されている(高木 2016)。一方、学習の基盤づくりのためには、学習面だけの指導だけではなく、背景にある体づくりを行う必要性を感じ、全校で実践を行なったものもある。それでは、運動、読み書き、学習規律についてのチェックシートを作成し、年度初めのデータから課題を洗い出し、課題に基づいた活動を、体育、日常生活に継続して実施した。その結果、年度終わりに評価したところ、身体図式の発達が確認できたり、学習規律が整ったりした(中尾 2014)。通級指導教室では、個別指導ではなく運動あそびを集団指導として年間を通して取り組んだ実践もまとめられている(森田 2009)。

しかしながら、このような実践報告はさほど多くはなく、協調運動に課題を呈する子どもの指導実践に焦点を当てたものは非常に少ないのが現状である。そこで、通級指導教室の子どもを対象に、通級指導教室での学習活動についてコンサルテーションを行うことで、協調運動面を向上させる指導内容・方法、学習活動の充実を目指す実践について報告する。

II 方法

1. 支援対象児童

市内の各通級指導教室に通う小学校1年生から4年生6名を集団指導する運動あそびグループ指導者。指導者は、通級指導教室担当者3名である。

2. 支援内容

2017年9月～2018年2月に月1回、全6回の通級指導教室の運動遊びの活動を参観し、事後の振り返りの時間を活用して、協調運動面を向上させる指導内容・方法、学習活動、の充実を目指す。指導内容・方法は、学習環境設定、モデルの提示の視点から、学習活動は、活動の質、活動の量、活動のバリエーションの視点から、それぞれの充実を目指す。以下、活動スケジュールである。

14:30 ~ 15:30 打ち合わせと準備,
 15:30 ~ 16:30 活動
 16:30 ~ 18:00 後片付けと事後の振り返り

Ⅲ 結果

1. 事前打ち合わせ：

2 学期からの活動からコンサルテーションに入ることになったので、夏休み中対象児童の大きな実態と 1 学期の活動内容 (図 1) と課題を共有した。

1. ストレッチ
 - ・音楽に合わせて体を伸ばそう
 (全身→体側→胸→肩と背中→アキレス腱→脚)
 - ・タオルストレッチ (体ほぐし→頭にのせて歩く→タオルキャッチ→引っ張り合いっこ)
2. ボールおくり
 - ・子ども 1 列にならぶ タイムを計り、記録を縮める
 - a) 体の横からひねってボールを渡す
 - b) 頭の上から後ろへボールを渡す
3. サーキットに挑戦しよう
 【スクーターボード、フラフープまたは丸い輪 (ケンパ用) 平均台、跳び箱 7 段、4 段、ボール 2、3 個、風船】
 - ・ゴールについたら、シールを貼り 2 回目に挑戦。
4. 先生と対戦！
 - ・船長さんの命令
 - ・じゃんけん大会
5. ふりかえり
 - ・がんばった学習に、写真を貼ろう。
 - ・どんなことをがんばったのか、発表
 - ・次回の予告・あいさつ

図 1 1 学期の活動内容 (2 回分)

(1) 学習設定に関する課題

課題：振り返りをする場所が明確ではない。

改善策：活動の流れを知ったり、振り返りをする場所を設定する。落ち着いて向かえるように椅子を用意する。

(2) 活動量および質に関する課題

課題：ストレッチ、サーキット共に、活動の種類が多いため、一つ一つの動きを児童が丁寧に取り組めず、教師が児童の様子を把握できない。

改善策：ストレッチ、サーキット共に活動を絞る。

課題：活動の評価が必要である。

改善策：初回の活動時に、実態把握のための活動を取り入れる。

2. 第 1 回目

1) 活動内容

改善点を受け、以下のような活動内容に取り組んだ(図 2：太線、下線部が改善点)

- ねらい
- ①運動遊びを通して友だちと一緒に活動することの楽しさを味わうことができる。
 - ②いろいろな体の動きに挑戦して成功体験を積むことができる
1. あいさつ
 2. **タオルストレッチ (軸つくり運動)**
①背伸び ②前屈 ③後屈④ひねり (左右) ⑤斜めひねり (左右) ⑥ジャンプ ⑦深呼吸
 3. **チャレンジタイム**
①タンデム歩行②片足立ち (左右、開閉眼) ③ジャンプ着地
 4. **リレーあそび**
 - ・スクーターボードを使って
 ぞうきんがけ
 両手こぎ
 5. ふりかえり
 6. あいさつ

図 2 1 回目の活動内容

2) 児童の様子

事後の振り返りの時に出た児童の様子である (図 3)

- ・落ち着いて座ることができ、座席の効果があつた。
- ・タオルストレッチでは、ひねる動きが難しい児童と、ひねるのだけは上手な児童がいた。
- ・ジャンプ着地では、タイミングを合わせられない児童がいた。
- ・スクーターボードでは、スピードは速くないが交互でこげる児童と、交互のこぎが最後まで出来ない児童がいた。繰り返してやる中でできるようになる児童もいた。

図 3 1 回目の児童の様子

3) 事後の振り返り

以上の児童の様子を踏まえながら、全体の流れに関わって協議をした。

(1) 指導内容・方法に関する課題

①学習環境設定に関して

課題：タオルストレッチの時に、好きな位置に立って行っていたため、見本の真似をしようとしても、斜めから捉えることになり、正しく視覚情報を取り入れることが難しい。

改善策：一列に並ぶ (位置も決め、教師のサポート児童も決定)。

②モデルの動きに関して

課題：タオルストレッチでは、ひねる動きが難しい児童がいた。

改善策：目標となる姿勢や動きを、より明確な提示する必要がある。また、視覚的に情報を限定すると、求められている姿勢を理解して動きやすいと考えられるので、一つ一つの動きを正確に確認する。カウントを入れる。肩幅の広さを視覚的に示す（徐々に外していく）。

(2) 学習活動に関する課題

①活動の質について

課題：スクーターボードでは、交互のこぎが最後まで出来ない児童がいたとともに、足に意識があまりいっていないかった。

改善策：交互のこぎの時は足を上げるために、「足はピン」のキーワードを使う。ロープを登るような動き、バランスボールで体幹の維持するような活動を今後取り入れてもよい。

②活動量について

課題：チャレンジタイムは種類が多く、時間がかかった。

改善策：次回は活動を絞る（本の冊数当て、片足立ち（左軸足））。

③活動のバリエーションについて

課題：タオルストレッチのジャンプ等の同じ活動の中でレベルを変える発展性があるとよい。

改善策：タオルストレッチのジャンプの速さのバリエーションをもたせることで段階づけをし、レベルを変える。

課題：スクーターボードのぞうぎんがけは、抵抗感が少なく、活動の意図が見えにくい。

改善策：踏ん張って力を入れるために人を乗せて引張る・引張られる活動を取り入れる。

3. 第2回

1) 活動内容

改善点を受け、以下のような活動内容に取り組んだ(図4：太線、下線部が改善点)

1. あいさつ
2. タオルストレッチ（軸つくり運動）
 - ①背伸び ②前屈 ③後屈④ひねり（左右） ⑤斜めひねり（左右） ⑥ジャンプ ⑦深呼吸
3. チャレンジタイム

「片足立ち（左軸足）」

「何冊でしょう？」（本の冊数当て）
4. リレーあそび
 - ・スクーターボードを使って
 - はらばいで「足はピン」
 - 交互こぎで「足はピン」
 - 先生に押しってもらう→先生を乗せて押しに戻る
 - 先生に引っ張ってもらう→先生を乗せて引っ張って戻る
 - リレー「交互こぎ」
5. ふりかえり
6. 後かたづけ

図4 2回目の活動内容

2) 児童の様子

事後の振り返りの時に出た児童の様子である (図5)

- ・落ち着いて座れており、離席が全くなくなった。椅子の効果大である。
- ・タオル体操では、肩幅の印効果あり、モデルの正面で指示理解できた児童と、「足ポンド」は意識できたが、モデルへの意識がないのか、違う動きをしてしまう児童や、起点の位置が決まらず、足も動いてしまい動きが整わなかった児童もいた。そばで支援しても難しかった。
- ・スクーターボードでは、腕を前で押さえて後ろに引く動きができない。見本や声かけでも変化無し。指示が聞けて無くて、1回目の両手こぎが片手になっていた。両手こぎはできるが、交互こぎは未だ難しい。交互は肘から、工夫しようと一本指でこぎ。交互こぎは、クロールのように上手。
- 「足ピン」はまっすぐ出来ない。
- 先生を乗せて押すのは勢いでしている。先生を乗せて押すのは大変だったようだが、自力で頑張ろうとしていた。
- 友だちの見本を見て動きを取り入れられる。
- リレーでは、差が付いても友だちを責めたりしない姿や、「引き分けはいやや！」と言うが、気持ちは抑えられる姿があった。応援は一所懸命。勝ち負けこだわらない児童もいた。

図5 2回目の児童の様子

3) 事後の振り返り

以上の児童の様子を踏まえながら、全体の流れに関わって協議をした。

(1) 指導内容・方法に関する課題

特にみられなかった。

(2) 学習活動に関する課題

①活動の質について

課題：タオルストレッチの肩幅の印が効果があった

改善策：次回も肩幅の印は、継続する

課題：タオルストレッチのモデルへの意識がない児童がいた。

改善策：タオルストレッチのカウントを忘れずに行う

ことで、モデルを意識できるようにする。

課題:スクーターボードの交互こぎには差があり、「足ピン」「先生を押す」は難しい児童が多かった。

改善策:次回も、「両手こぎ」「交互こぎ」を継続して取り組む。

「先生を乗せて押す」「先生を乗せて引っ張る」のみにする。

②学習の量について

特にみられなかった。

③活動のバリエーション

課題:リレーはいい姿もあったが、競争に意識が向き、姿勢が疎かになる。

改善策:スクーターボード遊びに戻す

4. 第3回

1) 活動内容

改善点を受け、以下のような活動内容に取り組んだ(図6:太線, 下線部が改善点)

- 1. あいさつ
- 2. タオルストレッチ (軸つくり運動)
 - ①背伸び ②前屈 ③後屈④ひねり (左右) ⑤斜めひねり (左右) ⑥ジャンプ ⑦深呼吸
- 3. チャレンジタイム
「ジャンプ着地」
- 4. スクーターボード
 - ・ はらばい乗り「足はピン」
 - 両手こぎ
 - 交互こぎ
 - ・ 先生を乗せて押していく
 - 引っ張っていく
 - ・ ジェットコースター
 ロープを握ったまま乗り、スピードを楽しむ
- 5. 後かたづけ
- 6. ふりかえり

図6 3回目の活動内容

2) 児童の様子

事後の振り返りの時に出た児童の様子である (図7)

- ・ タオルストレッチ:動きが上手になってきた。モデルのTをよく見ている。ジャンプでリズムに合わせて高速で跳べていた。自信があり評価を求める姿。
 肩幅に開くことが意識できれば、ひねる動きは上手に出来るようになった。
 ひねる動きを「後ろを向く」という意識が強い(T骨盤を支える)。前屈で床につかなかったり、腰からでなく背中から曲げたりする。腕が伸びず、肘が曲がる。(どこをのばすかが分かっていない)肩幅を開く意識がすぐに無くなる。ジャンプのタイミングが合わない。膝が使えない。

図7-1 3回目の児童の様子

- ・ スクーターボード:両手こぎ、交互こぎも随分上手になった。交互こぎ、見本になって嬉しそう。おへその位置がきちんと決まれば、交互こぎはできた。スピードも速い。交互こぎはモデルが効。
 両手こぎはしんどい。「(腕) 後ろに下げよ」の声かけ、モデルで前回よりは出来るようになったが、形だけを真似てる感じで、力で引き寄せる感覚が捉えられていない。手を逆手にして漕いでしまう。
 速さに意識が向きがちで、正しい動きが出来ない。「右、左」の声かけでも分離しない。
 押す動きは友だちの手伝いを断って、頑張っ取り組める。引っ張るのはスムーズ。上手くできていた。引っ張るときに、すごい勢いである。押す時に頭でも押している。

図7-2 3回目の児童の様子

3) 事後の振り返り

以上の児童の様子を踏まえながら、全体の流れに関わって協議をした。

(1) 指導内容・方法に関する課題

特にみられなかった。

(2) 学習活動に関する課題

①活動の質について

課題:ひねる動きを「後ろを向く」意識になったり、腕が伸びず、肘が曲がったりしていた。

改善策:上肢と下肢の分離が必要な姿勢、動きが複数あるものの、動きが上手くない場合は、意識をさせたい動きだけにする(教師が児童の肘を触ることで、意識させる。手だけに集中させるために足を持つ)。

課題:ジェットコースターはみんなが好んでいる活動である。

改善策:楽しみの活動として位置づけ、始めに1回、最後に1~2回する。

課題:課題そのものではないが、チャレンジタイムも好んで取り組んでいたことを生かしたい。

改善策:継続的に取り組む。(30, 100, 150の三段階を設定し、30, 100は「きれいにびたっと止まる」を目標にする)。

②活動量について

・最初にウォーミングアップで3分間走を行う。

③活動のバリエーションについて

課題:スクーターボードの交互こぎについては個々による違いが出てきた。

改善策:腕ではなく、足を使う活動を取り入れる。けのびでどこまで進めるか。腕のみでどこまでいけるかも行う。

課題:タオルストレッチが上手になってきたことを生かす。

改善策:屈伸、長座での前屈、ひねり、斜めひねりを入れる。

5. 第4回

1) 活動内容

改善点を受け、以下のような活動内容に取り組んだ(図8:太線, 下線部が改善点)

1. あいさつ
2. 3分間走
3. タオルストレッチ (軸つくり運動)
 - ①背伸び ②前屈 ③後屈④屈伸⑤長座前屈④長座ひねり (左右) ⑤長座斜めひねり (左右) ⑦立位深呼吸
3. チャレンジタイム
 - 「ジャンプ着地」
 - ① お手本を見よう
 - ② 練習タイム
 - ③ジャンプ着地の発表しよう
4. スクーターボード
 - ・ジェットコースター 1回
ロープを握って乗り、スピードを楽しむ
 - ・けのび
 - 腕の力で
 - 足の力で
 - ・はらばい乗り「足はピン」
両手こぎ
交互こぎ
 - ・ジェットコースター 2回
5. 後かたづけ
6. ふりかえり

図8 4回目の活動内容

2) 児童の様子

事後の振り返りの時に出た児童の様子である (図9)

- ・三分間走では、「どこを走るの？」コースがないのが不安。後ろ向きは見えないのが怖くて前向きになっていた。
- ・タオルストレッチでは、基本の姿勢と腕を上上げる姿勢はきれいになってきた。姿勢を保てるようになってきた・長座でのひねりは上体だけがひねれて効果有り。長座の時にひねりを入れるとお尻が浮いてしまう。Tが固定するとそれに意識が向き、集中が途切れてしまう。身体が固くて長座で足をピンと伸ばすのが難しい
立位での前屈は床に手が着く。
足首固くて屈伸が難しい。
- ・スクーターボードでは、けのびの足、最初から出来たわけではなく、自分で蛙の足を見つけた。見本になれて満足。友だちの見本を見て足が蛙になって上手になった。1回目よりも2回目の足が蛙になって、姿勢もきれいになった。
手こぎの時に手を前の方について頑張っていた
- ・ジャンプ着地で「膝曲げてとまる」の声かけと見本で、何回かの練習の後、止まれるようになった。少ない回数でも練習や見本、声かけで自分でコントロールすることが出来るようになった。「きれいな着地」のイメージがもてた。

図9 4回目の児童の様子

3) 事後の振り返り

以上の児童に様子を踏まえながら、全体の流れに関わって協議をした。

(1) 指導内容・方法に関する課題

特にみられなかった。

(2) 学習活動に関する課題

①活動の質について

課題：3分間走では意図と異なる走り方が見られた。

改善策：ねらいを、「教師を先頭に抜かさないで(ペー

スを合わせる) 3分間一定のペースで走り続ける」に絞る。

コースや方向などが分かりにくかったことも考えられるので、教師が動作の指示を出す。(2, 3周は普通にランニング、大股、スキップなどのバリエーション) 四隅にコーンを置いてコースを作る。

課題：タオルストレッチでは、屈伸ができない児童が多かった。

改善策：屈伸は、お尻を下ろすイメージでゆっくり取り組む。基本は足を閉じて。足首が硬い子どもたちは、足を軽く広げて取り組む。長座の動きは次回も継続する。

課題：スクーターボードでは、けのびの蛙の足が上手であったので生かしたい。

改善策：落ちていて繰り返しが出来たことで、子どもたちが試行錯誤することが出来たのではないかと考えられるので、次回も継続する。

課題：ジェットコースターは激突を楽しんでいる。

改善策：危険なので、スタートを後ろにしてもう少し早めに手を離すようにする。また、最初にやるだけにする。

②活動の量について

特にみられなかった。

③活動のバリエーションについて

課題：けのびが上手にできているので、意欲を高められる。

改善策：次回の流れにチャレンジタイム(けのびの発表)を入れる。

6. 第5回

1) 活動内容

改善点を受け、以下のような活動内容に取り組んだ(図10：太線、下線部が改善点)

1. あいさつ
2. 3分間走
3. タオルストレッチ (軸つくり運動)
 - ①背伸び ②前屈 ③後屈④屈伸⑤長座前屈
 - ④長座ひねり (左右) ⑤長座斜めひねり (左右)
 - ⑦立位深呼吸
4. スクーターボード
 - ・ジェットコースター 2回
ロープを握って乗り、スピードを楽しむ
 - ・はらばい乗り「足はピン」
両手こぎ
交互こぎ
 - ・手こぎ・けのび
手の力で
足の力で
 - ・チャレンジタイム
けのびの発表
5. 後かたづけ
6. ふりかえり

図10 5回目の活動内容

2) 児童の様子

事後の振り返りの時に出た児童の様子である (図 11)

・3分間走では、大腿、スキップができなかった。
 ・タオルストレッチでは、屈伸で、「おしりゆっくり下げて」で膝が曲がるようになった。合わせて屈伸は、スピードについていけない。モデルの前についての方が良く、「足閉じたほうがうまくいく」指示をよく聞いて取り入れ、上達した。
 長座では集中しやすいが、座位保てず後ろへひっくり返りそうになる。
 飽きてきた子がいる。
 ・スクーターボードでは、両手こぎの方が進みやすい児童や、両手こぎより交互こぎの方がうまくいく児童、両手はまだできるが、交互がうまく進めない児童がいる。
 足をのばして体幹保てる児童や、保てない児童がいる。
 けのびは上手で、距離シールが伸びていくのがうれしい。
 ロープをしっかり持てず2回を離す。

図 11 5 回目の児童の様子

3) 事後の振り返り

以上の児童に様子を踏まえながら、全体の流れに関わって協議をした。

(1) 指導内容・方法に関する課題

特にみられなかった。

(2) 学習活動に関する課題

①活動の質について

課題：3分間走では、速く走りたい児童や、大腿、スキップがみんなのスピードについていけずにただ走るだけになる子が多い。

改善策：全力で走ってOKの場面も作る。音楽終わったら最後一周は歩くことでクールダウンする。

課題：タオルストレッチでは、長座になると集中しやすくなる一方、飽きてきたり、後ろにひねる時に、タオルを頭にひっかけたりする児童もいた。

改善策：リズム、テンポにバリエーションをつける。斜めひねり自分でできているか確かめにくいのでなくす。

課題：スクーターボードでは、自分で試行錯誤する時間を多くすると、身体の動かし方を理解できるので、次に生かしたい。

改善策：あるだけのスクーターボードを出して、コースを作る。コーンの距離、数に変化をつけて、どのコースか決めて練習させる。次回、レスキュー隊：交互に腕を出して引っ張る。

②活動量について

ジェットコースター：初めに2回で、「もっとやりたい」の声あるも、納得できていた。

③活動のバリエーション

課題：タオルストレッチでは、飽きてきた児童がいた。

改善策：今回は、タオルなしでストレッチ「上手にできるようになったかな？」(エアタオルをピンと張れているかな)を取り入れる。

7. 第6回 (最終回)

1) 活動内容

改善点を受け、以下のような活動内容に取り組んだ(図 12：太線、下線部が改善点)

1. あいさつ
2. 3分間走
3. **ストレッチ (エアータオル) ~軸つくり運動~**
 ①背伸び ②前屈 ③後屈 ④屈伸 ⑤長座前屈
 ⑥長座ひねり (左右) ⑦立位深呼吸
4. **スクーターボード**
 ・段ボール箱倒し 2回
 ロープを握って乗り、スピードを楽しむ
【個人練習コーナー】
 ・はらばい乗り「足はピン」
 両手こぎ
 交互こぎ
 ・レスキュー隊
 交互に手を伸ばしたぐりよせて進む。
 ・手こぎ・けのび
 足の力で
【チャレンジタイム】
5. 後かたづけ
6. ふりかえり

図 12 6 回目の活動内容

2) 児童の様子

事後の振り返りの時に出た児童の様子である (図 13)

・三分間走では、最後全力で走ったのは満足感がありそう。最初の3周は何とか抜かさないで走れるようになった。
 ・ストレッチ、本児自身が言われたとおりに身体を動かさないことも影響、また同じ活動がマンネリ感じてなかなか指示が入らない児童がいた。
 ・スクーターボードでは、衝動的な面、段ボール箱倒しの時に、他の友だちがやっているときに勝手にスクーターボードで突進、友だちにぶつかりかける。
 レスキューのやり方を色々工夫していた。時間を確保することで試行錯誤することが出来た。レスキューは意欲的でいろんな乗り方を考えられた。(ドラえもののイメージ) 時間を確保することで試行錯誤することが出来た。レスキューでのいろんな乗り方を工夫するのは難しく、他の友だちのやるのを真似て考えていく感じ。
 「モノレール」ロープを下にしてたぐり寄せる。
 「正座乗り」スピードが速い。
 「片手乗り」片手で仰向けになってバックで進む。
 帰りは反対の手でロープをたぐり寄せながら進む。
 「横向き乗り」スクーターボード上で三角座りをして横向きに進む。
 「正座滑り」スムーズに出来る。
 「のび太乗り」仰向けに寝そべて進む。
 「たて乗り」スクーターボード上に立って進む。

図 13 6 回目の児童の様子

IV 考察

通級指導教室において、協調運動面を向上させる指導内容・方法、学習活動の充実が図れたかについて考察する。

まず、指導内容・方法についてである。第1回目は、指導内容・方法についての内容が多く、改善の中心を占めたが、それ以降、特に触れることはなかった。これは、第1回目に確認したことで、その後の指導の際には、学習環境設定については、それぞれの活動の場面で、指導支援の工夫が見られるようになったためである。例えば、長座前屈の活動の際には、「どの児童も教師の動きを同じ方向から見られるように、児童は一列に並び、定位置化する」や、「児童が一つ一つの動きに意識を向けられるようにするために、足を開く位置に印を付ける。」といったことである。

今回は、通級指導教室で経験豊富な教員であったため、ひとつの事例を通して、多様な視点をもつことができたと考えられる。そのため、十分なコンサルテーションがなくても、指導者同士で指導内容・方法の充実が図れるようになることもある。

次に、学習活動についてである。1学期から初回にかけては、活動や道具が優先され、どんな目的で活動するのが、明確ではなかった。しかし、事後の振り返りにおいて、常に「児童が何を意識して活動するのか」「児童が意識できるための手立て何か」を繰り返していくことで、ここだけは頑張らなくていい姿勢や動きを焦点化することができるようになった。例えば、「児童が一つ一つの動きに意識を向けられるようにする」「体幹が弱い児童が多いので『軸を作る』ことや、左右の分離が難しい児童も多いので『分離しなければ動けない活動をとおして、両側の協調を高める』ことをねらいとした活動を取り入れる」といったことである。そのために、「上肢のひねりの場合は、下肢を固定した長座姿勢で行う」活動にしたり、「『腹ばいで足を伸ばす活動』『交互こぎ』は継続して行う」ことにしたりと、活動の質を求める組み立てに改善することができていた。また、「足はピン」といったシンプルなキーワードを決めたり、カウントを唱えたりすること、それらを教師が常に同じ言葉を使用することといったように、児童が意識できるような指導上の工夫の充実も図ることができるようになった。さらに、児童が体を通して体の使い方を学べるようにするために、試行錯誤の時間を作る学習活動も生まれた。これは、教師主導型ではなく、児童が主体的に活動に向かい、自力で課題を解決していく学習活動を設定できたということである。この時間の設定により、個人で、けのびでかえる足を習得した児童がいた一方で、友だちの様子を見て、取り入れることによって、かえる足を習得できた児童もいた。それぞれの方法で、主体的に自力解決できた姿であり、本来目指すべき指導方法、学習活動に踏み込めたと言える。これらのことから、コンサルテーションをすぐに活動に生かし、学習活動の充実を図ることができたと言える。

今後に向けては、月1回ではあるものの継続して取り組み、改善を重ねることで、体幹の弱さ、左右の動きの協調が難しい児童に対して、グループ活動の指導内容・方法、学習内容をいくつか見いだすことができた。次年度以降も継続すること、さらにグループ活動の指導内容・方法、学習内容の充実を図ること、また他のグループでも実践することができるとよいと考える。

本研究をまとめるにあたってご協力いただきました太田恵先生、掛田みちる先生、小川絹子先生に深く感謝いたします。

引用、参考文献


- 加藤守昭 (2014) 「笑顔いっぱい!!」楽しい環境で体を動かそう! 特別支援教育研究 東洋館出版社 16-19
- 川村賢一 (2016) 児童生徒が達成感を実感しながら取り組む自立活動「身体の動き」の実践～指導資料「これカラダ」の活用を通して～ 特別支援教育研究 東洋館出版社 12-15
- 香野 毅 (2016) 知的障害や発達障害のある子どもの身体の動き～子ども理解と支援の窓口としての身体～ 特別支援教育研究 東洋館出版社 2-6
- 森田安徳 (2009) これからの特別支援教育2 発達障がいの子どものための楽しい感覚・運動あそび 明治図書
- 中尾繁樹 (2014) 「特別」ではない特別支援教育5 不器用な子どもたちの感覚運動指導 59-85
- 高木 潤 (2016) 通常の学級での学習につながる体づくりの取組～「座る力」「見る力」「聞く力」を高めて集中して学習に取り組もう～ 特別支援教育研究 東洋館出版社 20-23

資料

運動遊びグループ 指導略案

- 1 日時 2月(水) 小学校体育館 15:30~16:30
 2 ねらい ・いろいろな体の動きに挑戦しよう
 ・友だちと協力して、活動しよう

3 学習の展開

学 習 活 動	指 導 の 留 意 点	担 当 ・ 準 備 物
1. あいさつ	・めあての確認・予定の説明。	・めあて、予定カード
2. 3分間走 2, 3周ランニング →大股歩き →スキップ 音楽終了後、最後の一周を歩いてクールダウン。	・体を温めるとともに「ペースを合わせることをめあてにする。 ・教師が先頭を走り、「先生を抜かさない」「コーンの外側を走る」を意識させる	・子ども用名札 ・記録・メモ用紙 ・待機/集合場所(児童椅子) ・CDデッキ ・CD
3. ストレッチ(エアータオル) ～軸づくり運動～ ① 背伸び ②前屈 ③後屈 ④屈伸 ⑤長座前屈 ⑥長座ひねり(左右) ⑦立位深呼吸	・一列、ライン上に順番(1~7)に並ぶ。 足の位置にビニールテープ ・担当 6(T) 7(T) 2(T) モデル(T) ・動きをできるだけ意識しながら取り組めるようにするために、 合言葉「タオルはピン」 「体はまっすぐ、足はベタ」「腕はピン」 屈伸では「おしりをゆっくりおろそう」 (足首が硬い子は、足を開く) カウントを数える。	・ビニールテープ ・はさみ
4. スクーターボード (1) 段ボール箱倒し ・5~6個積んで積まれた段ボール箱を、体の側部で崩す。 【個人練習コーナー】 (2) はらばい乗り ① 両手こぎ ② 交互こぎ (3) レスキュー隊 ・交互に手を伸ばしたぐりよせて進む。 (4) 手こぎ・けのび ・足の力でだけで壁をけてどこまで進めるか。 【チャレンジタイム】 (5) 発表しよう	・はらばい+交互こぎによって【分離した動き】を引きだす。 ・合言葉「足はピン」で足を伸ばすことを意識できるようにする。 ・コーンをジグザグに回って戻ってくる。 ・児童によって幅、コースに変化をつける。 ・交互に引くことで両手の協調を高める。力を入れてロープを引く。  ・進んだ距離のところにシールを貼って伸びの実感を持たせる。 ・どの乗り方で発表するか決める。	・スクーターボード5台 ・12m程度のロープ ・段ボール10~12個 ・ほうき、モップの柄2本 ・三角コーン ・ミニ三角コーン ・i-Pad/ビデオカメラ
5. 後かたづけ	・使用したものは集めて一か所へ	
6. ふりかえり	・がんばったことを、発表しよう。 ・次回予告	・写真カード ・スピーチカード